

新年を迎えて

みなさん、あけましておめでとうございます。

ミレニアムと騒いでからもう16年。時間の過ぎ行く速さに驚かされます。また、過日ZAGのWEBサイトを整理していた際にJA3AA島さんの受勲をお祝いする行事のビデオを改めて見たのですが、当の島さん、行事を企画されたJA3UB三好さん、司会をされていたJH3GAH後藤さんを拝見して、やはり時間の移り変わり速さを感じていました。

もう長い間ZAGに新しい若いメンバーの参加がありませんから、メンバーの平均年齢が毎年一歳ずつ高くなっていることになります。ZAG設立当時には若いメンバーの代表のようだった私も今年で67歳になります。歳と共に体力や気力は衰えていくものかも知れませんが、ハムはアンテナ工事を除けばそれほど体力を必要とせず楽しめる趣味に思えます。2015年にも南米を除く全大陸、東は納沙布岬から南は波照間までとても多くの旅をしました。多少体力が衰えても楽しめるアマチュア無線の比重を少し減らしても、健康な間に旅を楽しもうと多くの旅をしています。外出が面倒になったり、これまでより体力が衰えたと感じたら、これまで以上にハムにもっと軸足を移す良い機会かもしれません。ZAGはクラブとしての団体活動より、個人がハムとしての活動を重視してきた伝統があります。言い換えれば、みんなが自分のペースでアマチュア無線を楽しめるわけですから。

今年は2年に一回のAPDXC 2016の年に当たり11月11日～13日に開催を予定します。以前ブラジルから家族で参加してくれたPY2DM吉沢さんが20人以上のハムをブラジルから今年のAPDXCに連れてこようと張り切って準備をしてくれています。また、これまで5回のAPDXCすべてに参加してくれたW0G夫妻がコンテストで世界的に有名なW0AIH夫妻を連れてくるとの話も伝わってきました。APDXCをこれまで以上に楽しい行事にしたいと願っていますので、メンバーの方々のご協力をお願いします。

2016年が皆様にとっても、クラブにとっても明るい年でありますように。

73 大阪国際交流センター・ラジオクラブ 会長
JA3USA 島本 正敬

昨年、イースタ島とブータンにでかけました。
今年も元気であちこちに出かけたいと考えています。

平成二十八年 一月

あけまして
おめでとう
ございます



「Rapa Nui (Easter IS)」 モアイ

〒581-0085

大阪府八尾市安中町3-2-39-1202

北井 十生

TEL/FAX 072-993-9451

Email: jkitai@d2.dion.ne.jp

2016年1月11日から1月23日までサウスクック島にDX
パケーションに6人で出かけます。

(現地時間 1/12から1/21まで)

6人同一コールでE51Jです。160mから6mまでのCW,
SSB, RTTY, PSK, JT65で出ます。

個人コールはE51IVUです。

VP8STIとK5Pと同時期でさどうなりますか。

P5/3Z3DXとは重なりそうではないようです。

よろしく願います。

de JA3IVU 北井十生



船舶局通信室

TF, OXの博物館にて

photo by

JH3AEF 東條 純一

謹賀 2016 新年

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます



50年ぶりにバイオリンを再開し、マイナスイオンという「カラオケ」でオーケストラをバックに独奏。誰も聴く人がいませんので一人悦に入っています。技量は戻りつつありますが、気楽にやるつもりがもっとうまくなりたいて一日中練習に明け暮れ家事サポートをサボるため問題発生。今年は家事サポートとこの焦りに調和することが私の課題です。(このおサルさん達は朝日新聞から拝借しました)

宮本誠一・知子

de JE3BEQ 宮本誠一

謹賀新年

On Airが新年のJARL QSO Partyのみという年が続いていましたが、最近i-Houseでオペレートさせていただくようになりました。

自宅と勤務先のちょうど中間にi-Houseがありメンバーの中でも一番近くにおりますので、2016年はZAG局のアクティビティをあげるべくがんばりたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

JR3LOO 西尾幸浩

de JA3AOP 杉山 暁

賀春

皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします
2016年 元旦



2015年3月の末、名残の雪を求めて一人で車を駆って標高2,000mの世界へホームページ <http://ja3aop.net>の「写真とビデオ」欄に動画があります(ピラタス蓼科)

本年が良い年でありますように

杉山 暁

西宮市千歳町 5-6-505



YAESU
TWO-WAY RADIOS

TF,OXの博物館にて
photo by
JH3AEF 東條 純一

SEANET 2015 Kerala India 雑感

JE3BEQ 宮本誠一

(前書き)

2015年のSEANETコンベンションは、インドのケララ州アラプツツアで3日間開催された。フォーマルなレポートはJA3AER (荒川さん)がCQ誌12月号に投稿されているのでそれを御覧頂き、私は感じたことをレポートしたい。インドでの開催は1996年のマドラス、2005年のバンガロールに続き3回目になる。バンガロールには当クラブから、JA3AA (鳥さん)、JA3UB (三好さん)、JA3AER (荒川さん)と私そして会友のJA4HC K (馬場さん)の5人が参加したが、今回は荒川さんと二人であった。



写真1 懐かしいバンガロールのスナップ
(馬場さんは私の後ろで見えませんが)



写真2 バンガロールの主催者
(左からVU2GMN、VU2KKZ)

(VISAの取得、コンテスト)

インド渡航の最初の関門はVISA取得であった。主催者から現在は「オンラインビザ取得」で発行手続きから入手まで簡単と聞いていたが、実際はウェブサイトの説明が一部「工事中」と不十分で戸惑う表現が多く神経を使った。オンラインビザ発行には2種類あって、ウェブサイトのフォーマットに記入してプリント出力した書類と写真を日本のビザ申請センターに提出し事前にチェックを受けて取得する方法と、ウェブサイトのフォーマットに記入して写真と一緒にオンラインでインドに直接送ってしまう方法がある。

しかしウェブサイトの日本語の説明を読んでもこのことが良く分からず、むしろ英語の説明で理解できた。自分で申請すると3千円弱、業者に頼むと1万円超なので自分で取ることにして申請開始日(出発日の30日前)を待っていたら、荒川さんからビザも取ったよとの連絡を頂いた。

なぜ申請開始日前に荒川さんがビザをとれたのか、自分は何か勘違いをしているのか不安になったが、直接インドにオンラインで申請する場合の制限であったビザ申請センターに持ち込む場合はその制限がないことをやっと知った。

インターネットの検索でも「世界一面倒なインドビザ」と書かれていることから、大勢の人が悩んでいることが分かる。

理由は分からないがギリバスの常連T32AZ (Kenneth Taylerさん)がビザを拒絶されて渡インできず会えなかったことに皆が落胆した。

彼は今年のSEANETコンテストで域外ハイパワー部門のチャンピオン、杉山さん(JA3AOP)は域内のハイパワー部門ダントツのチャンピオンで表彰された。

SEANET CONTEST 2015- RESULTS

CATEGORY: Rest of the World - HIGH POWER

Callsign	Score	Placing
T32AZ	1066	1st
DK3KD	198	2nd
SN5N	128	3rd
K3ZO	91	
K3TW	80	
YU7KM	42	
OK2QX	40	
SP3BES	30	
G3LHJ	12	
N1RR	12	
4O4SM	1	
HC1JQ	1	

CATEGORY: Rest of the World - LOW POWER

Callsign	Score	Placing
HA8TP	104	1st
SP7VTQ	72	2nd
UX7UU	56	3rd
9A4WY	30	
OH6ECM	20	
SE90IARU	15	
UA3MIF	12	

CATEGORY: SEANET - HIGH POWER

Callsign	Score	Placing
JA3AOP	15309	1st
HS0ZLM	4940	2nd
JG7PSJ	4576	3rd
JO7KMB	3232	
YB5BOY	2821	
VR2XMT	432	
JE1RRK	350	
JK2VOC	168	
JA3AER	30	
VU2JOS	16	
JA6CVR	4	
JE3EDJ	1	
VU2TO	1	

表1 :コンテスト結果

(旅は道連れ)

以前はSEANETのチャンスに近隣の未訪の国を訪ねるのが楽しみであったが、寄る年波と一人旅の心細さで意欲が減退し今回は目標をSEANET参加だけに絞ったので、若手のシーネッター達が一人旅を続ける姿が羨ましかった。

インドのコーチン空港への直行便は無くシンガポール乗り継ぎで合計14時間の旅は、アメリカ・ヨーロッパ並みで疲れる。こんなとき隣席の客と会話が弾んだら随分気分がほぐれる。行きはイギリス人のイラストレーターであった。婦人雑誌のモデルの顔をA5サイズのメモ帳にサインペンを使って1枚5分程度で描き続け、シンガポール到着までに1冊書き終えていた。よく見ると雑誌の写真を単にトレースするのではなく自分のイメージに表情を変えていて実物より魅力的に描かれていた。思い出に一枚貰っておけばよかった。シンガポールのチャンギ空港で乗り継ぎ機を待つ間に、ブルネイ、マレーシア、オーストラリア、東京組が続々とやってきて賑やかに再会を喜び合った。



写真3 隣席のイラストレーターJasonさん



写真4 :チャンギで再会1



写真5 :チャンギで再会2

(便利ツールも不便利)

今回購入して間もないアップルウォッチを携行し勝手に現地時間に変るものと思っていたが、悩まされる結果となった。確かインドは時差3時間半遅れの筈なのに何故か2時間半の表示。都市名を入力したらもちろん正確な時刻表示にはなるがコンピュータウォッチと言うからには手修正では意味がない。

しかし自動で時差を修正する機能はどうも無さそうだ。そんなものは世の中に未だ無いのだろうか、がっかり。

荒川さんも愛用の電波腕時計をシンガポールで修正するのに苦労されていて、空港の免税店で急遽代わりのものを買おうと探しておられた。もっと便利にならないものか。

(ロマンチックな深夜の到着)

深夜前に到着したコーチン空港で主催者VU2KKZ (Rajaramさん) 他の出迎えを受け、空港近くのホテルに宿泊して早く休みたい組と会場兼宿泊場所になる目的のレイクパレスホテルまで行ってしまいたい組に分かれた。

これは彼の配慮で、日本のグループはバスに乗って約2時間の深夜ドライブのあと真っ暗な湖をクルージングしてホテルの棧橋に到着し、それぞれのねぐらに消えて長い一日を終えた。



写真6 深夜の到着ブルネイの人たち1



写真7 深夜の到着ブルネイの人たち2 V85DXとXYL

(開催日程の変遷)

2006年のSEANET大阪の参加費は、それまでの300米ドルを超えて500ドルの大台に達した。そのときは止むを得ないと概ね肯定されたが、SEANETの精神部分であるテクニカル(技術会議)及びプレナリー(次期開催地等を決める全体会議)セッションと余興のガラディナー(パーティー)のプログラムを入れ替えて選択可能とし、通常3泊4日の開催を2泊3日の選択も可能にする費用縮小案も実施されてきた。今回は2日目にテクニカルセッションをもってきて、3日目の晩にガラディナー、最終日の午前中にプレナリーセッションの組み合わせであった。実態は2009年のソウル以降費用500\$ ±の状態が続いており、再び3泊4日のパターンに戻っている。

(開催者の横顔)

今回のSEANETはVU2KKZが開催者のリーダーを務めたが、実は10年前のバンガロールも実質全体を取りまとめた人で、SEANETにひとかたならず傾注をされていることは分かっていた。2013年の横浜で開催を再び名乗り出たが、「やりたい」と手を挙げて取り組む姿が我々の大阪開催のときと似ていて親しみを感じてきた。毎晩のように一日のスケジュールが終わった後彼らと一杯飲みながら話し合ったが、組織も規約も会費の徴収も無いこのような国際的なコンベンションが半世紀近く続いてきたのは、アクティブな「個人」がやりたいと手をあげて引っ張ってきたことにその原点があり、今後もこのシーネット精神が続く限り、このレユニオンは未だまだ続くであろうと皆の考えが一致した。



写真8 開催を支えた人達



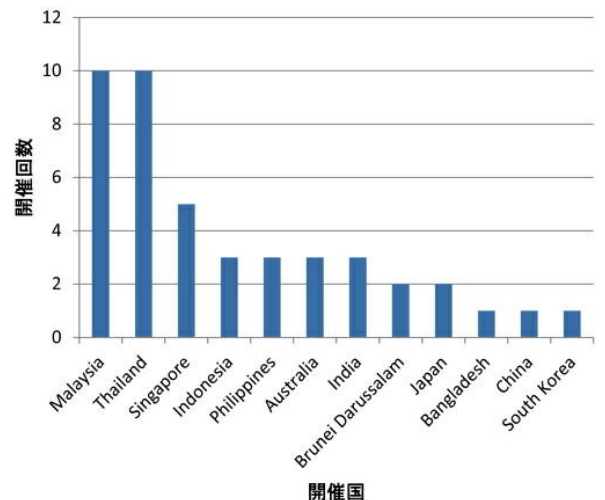
写真9 深夜のミーティング、

左から9M2KN、HS1XIM、VU2KKZ、JE3BEQ

1	1971	Penang(1)	Malaysia(1)
2	1972	Bangkok(1)	Thailand(1)
3	1973	Singapore(1)	Singapore(1)
4	1974	Manila(1)	Philippines(1)
5	1975	Kuala Lumpur(1)	Malaysia(2)
6	1976	Jakarta(1)	Indonesia(1)
7	1977	Bangkok(2)	Thailand(2)
8	1978	Singapore(2)	Singapore(2)
9	1979	Penang(2)	Malaysia(3)
10	1980	Manila(2)	Philippines(2)
11	1981	Jog Jakarta(2)	Indonesia(2)
12	1982	Bangkok(3)	Thailand(3)
13	1983	Singapore(3)	Singapore(3)
14	1984	Penang(3)	Malaysia(4)
15	1985	Cebu	Philippines(3)
	1986		
	1987		
16	1988	Bangkok(4)	Thailand(4)
17	1989	Singapore(4)	Singapore(4)
18	1990	Kuching	Malaysia(5)
19	1991	Chiang Mai	Thailand(5)
20	1992	Darwin(1)	Australia(1)
21	1993	Dhaka	Bangladesh
22	1994	Malacca	Malaysia(6)
23	1995	Koh Samui	Thailand(6)
24	1996	Madras(1)	India(1)
25	1997	Darwin(2)	Australia(2)
26	1998	Singapore(5)	Singapore(5)
27	1999	Bandar Seri Begawan(1)	Brunei Darussalam(1)
28	2000	Pattaya(1)	Thailand(7)
29	2001	Kota Kinabalu(1)	Malaysia(7)
30	2002	Parth(1)	Australia(3)
31	2003	Johar Bahru	Malaysia(8)
32	2004	Bangkok(5)	Thailand(8)
33	2005	Bangalore(2)	India(2)
34	2006	Osaka (Kansai)	Japan(1)
35	2007	Lampang	Thailand(9)
36	2008	Kota Kinabalu(2)	Malaysia(9)
37	2009	Seoul	South Korea
38	2010	Shanghai	China
39	2011	Bandar Seri Begawan(2)	Brunei Darussalam(2)
40	2012	Kuala Lumpur	Malaysia(10)
41	2013	Yokohama	Japan(2)
42	2014	Bali	Indonesia(3)
43	2015	Alleppey (3)	India(3)
44	2016	PATAYA(2)	Thailand(10)
		Malaysia	10
		Thailand	10
		Singapore	5
		Indonesia	3
		Philippines	3
		Australia	3
		India	3
		Brunei Darussalam	2
		Japan	2
		Bangladesh	1
		China	1
		South Korea	1
			44

(今後のSEANETコンベンション)

来年のSEANET 2016はタイのパタヤで開催されるが、再来年2017年の候補地は未だ無く今回のプレナリーセッションでカンボジアでの開催の可能性を探ろうということになり、さっそくフィジビリティスタディーの各国メンバーが立ち上げられた。結果はどうであれ自発的なこのような試みは素晴らしいと思う。カンボジア開催が不可能な場合は、9M2KNがマレーシアのジョホール・バルーでの2回目の開催の意向を示している。2018年は正式ではないが極東アジアの国が2回目の開催の意向をこれ又表明してくれている。



資料2 各国の開催回数

資料1 開催地(国)の変遷

アメリカで……(2)

島本 正敬 JA3USA

今年6回目のMedford, Oregonでこれを書き始めました。

「アメリカ西海岸」と聞くと、青空と暖かい気候というイメージをお持ちかもしれません。でも、カリフォルニア南部を除く西海岸の冬はそのイメージからほど遠いものです。特にシアトルのあるワシントン州からポートランドのあるオレゴン北部では冬には晴れ間が少なく、屋根に苔がついてしまつらい雨がしとしと降り続きます。また、カリフォルニアでも北部のシヤスタ山周辺やネバダ州との境にあるシエラネバダ山脈では冬には雪で覆われスキー場も点在するのですが、米西海岸にとってこの雪解け水が最大の水源なのですが、この数年は雪が少なかったせいでカリフォルニア州では渇水状態が続いていました。このオレゴンの家の南にある標高2600m余りのMt. Ashlandにはスキー場があります。普通なら冬の夜になると夜間照明が見えるのですが、雪不足のためこの数年スキー場としてオープンすることができませんでした。それが一転してこの冬は雪や雨に恵まれているので、底を突いていた湖や貯水湖は水位を回復し始めました。さて、そんなオレゴンからアメリカのクリスマスのお話をしましょう。

アメリカでは11月第4木曜日の感謝祭まではクリスマスの気配を普通感じることはありません。ですから、日本のほうがクリスマスの気配を感じるのが早いようです。その理由は、感謝祭がアメリカでは重要な行事だからなのです。ですから、感謝祭が終わると一変してクリスマスモードになり、それぞれの家庭ではクリスマスツリーの準備が始まります。こちらでは本物のモミの木を使用してクリスマスツリーを用意するのが一般的で、全米で毎年消費されるモミの木は2000万本を超えと言われています。ここオレゴン州が最大の供給地で毎年1000万本弱が出荷されるのです。これらの木は植林して生産されていますから自然破壊にはならないのですが、クリスマス後の廃棄処分に頭を悩ませるところもあるようです。こちらの家のドアに、ボーイスカウトが1月の10日頃にモミの木を回収するので、寄付をお願いしたいというカードが入っていました。

日本でもクリスマスライトを飾る家庭が数年前あちこちで見かけ、我家周辺でも結構手の込んだ飾りつけの家も見かけましたが一過性だったのか、最近はかなり減少したように思います。日本のお正月のように、いやそれ以上に、アメリカ人にとってクリスマスは一大イベントですから、クリスマスライトの飾りつけに一層力が入ります。派手さに差こそあれ半数以上の家がライトで飾られ、普段とはまったく異なる景色が広がります。ある通りでは、面する家庭が競うように華やかな飾りつけが施され、夜ともなれば見学の車で通りがいっぱいになるのです。屋根から前庭まで取り付けられた明かりがコンピュータ制御で音楽に合わせて点滅したり明かりが移動したり色が変わったりと、これが個人の家かと思うくらいです。その庭先に「101.5」

というような看板が立っているのですが、それは音楽が車内で聴けるようにと、その家から送信されているFMラジオの周波数なのです。その家だけでも十分な明かりのショーとなっているのですが、そんなのが住宅地内の通り全体にあるのですから、見物の車が数珠繋ぎになるのも当然なことでしょう。Medfordのクリスマスライトの一部を紹介するビデオをYouTubeで見つけましたのでご紹介します。ご覧になるすべて一般家庭の映像です。ビデオ後半で一層にぎやかになります。

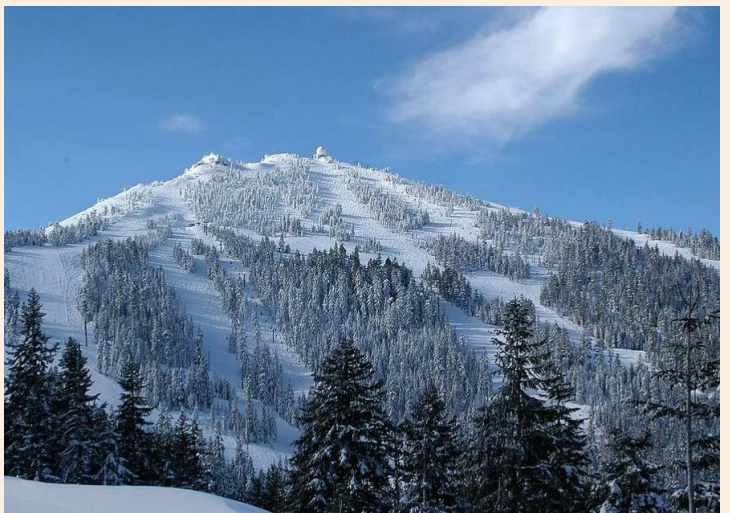
<https://www.youtube.com/watch?v=ICALtFIWbVM>

また、オレゴンのものではありませんが、音楽とシンクロするクリスマスライトの映像を見つけたのでご紹介します。お楽しみください。

<https://www.youtube.com/watch?v=JApm43OSp1g>

クリスマスには家族が集まりますから食事の準備もありますし、プレゼントの交換も行われます。そのため、日本の師走恒例の買い物ラッシュ同様な状況がクリスマス前に起こります。「ここにこんなに自動車があったのか?!」と思うくらい街のあちこちで車があふれ出します。それが、クリスマスイブの24日の夕方を過ぎると、一転して静かな街に変わります。おしりに火がつくまで準備ができないというのは、国を越えても共通のようです。

今日はクリスマス。滞在中のMedfordの街のあちこちを先ほど車で回って見ましたが、昔の日本のお正月のようで、一部の飲食店を除いてすべてが休業していました。昔は感謝祭の日もクリスマス同様に静かな街になったのですが、これは今の日本のお正月のようにほとんどのお店が営業をするようになっています。散らばって住んでいる家族がクリスマスと一緒に過ごすため集まっているのか、いつもはなにもない各家のドライブウェイに複数台の車が駐車されている家をよく見かけました。



Mount Ashland ski area in winter